

海の女を目指して ～赤い円管服への誓い～

会員 池田 美奈子



海事弁護士

私は、海事事件を専門に扱う事務所に所属しています。「海事事件」とは海に関する事件だとは分かって、具体的にどのような案件を扱うのかご存知の方は少ないのではないのでしょうか。私の事務所は、海事事務所の中でも幅広い種類の案件を受任しており、船舶同士の衝突等の事故案件から傭船契約に関する紛争やシップファイナンスまで様々です。

特に事故案件に関しては、船に関する知識が不可欠であり、事務所には元船乗りの弁護士もおりますが、基本的には商船大学や船会社出身の海事補佐人と共に事件の処理に当たります。

乗船研修

幼少の頃より海の近くで育ってきたものの、船については門外漢であるため、入所直後は、海商法の専門書よりも先に「船のすべてがわかる本」や「船体構造イラスト集」なる本を熟読して、船の構造や海運業について勉強しました。しかし、どうしても書物から学べる知識には限界があり、いざ事故案件の依頼がくると、当該案件の事故原因はおるか、「そもそも何故あんなに広い海の上で船が衝突するのか？」という初歩的なことも理解していない自分に気がきました。これでは何時まで経っても一人前の海事弁護士にはなれないと危機感を抱き、パートナー弁護士に「船に乗せてください！」と直談判しました。

熱意（焦り？）が伝わったのか、色々な方々の協力の下、6月にVLCC（大型原油タンカー）での3泊4日の乗船研修が実現しました。乗船したVLCCは全長333m、幅60m、載貨重量31万トン強。東京タワー

の高さが丁度333mなので、本船がいかに大きいかがお分かりいただけると思います。初めて本船を目の前にしたときは、その重量感に圧倒され、とても海に浮いているとは思えませんでした。実際、停泊中に限らず、航行中であつても海が荒れていないときは、全く揺れを感じず、船橋等がある居住区内にいと陸上と錯覚してしまうほどでした。

船上では、船員は皆、円管服（つなぎ）を着用して作業に当たります。私もパートナー弁護士から乗船研修にあたり円管服を調達しておくように、と指示されました。何も知らない私は、万が一海に落ちてみすぐに発見してもらえるようにと、真っ赤な円管服を注文しました。購入後、パートナー弁護士に報告すると、「今の若い人は考えることが違う！」と妙に感心されてしまいました。

実は、海上での視認性が高いのはオレンジ色だそうで（救命用具にオレンジ色が多いのはこのため）、オレンジ色の円管服を制服としている船会社もありますが、基本的には落ち着いた色の円管服を着用することが多く、赤い円管服は良くも悪くも目立ってしまいました。

研修では、船橋における船長や航海士の業務の見学を始め、機関室や荷役設備、荷役作業の見学や、海図の読み方、六分儀の使い方等多くの貴重な経験をさせてもらいました。

海の女への道

私は海事弁護士として歩み始めたばかりです。この乗船研修で得た知識を活かしてこれから数多くの事件をこなし、一日でも早く一人前の海の女になれるように精進して参りたいと思います。